

二酸化炭素削減部会

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の削減のための活動を続けています。

1. 池子小学校のアースデイに参加しました

平成25年11月16日(土)、池子小学校で開催の「アースデイ逗子@池子小学校」では、「ずしし環境会議」のコーナーを設け、多くの方々が「エネルギーの大切さを知る実験」に参加しました(全参加者約360名)。

●次の実験で省エネやエネルギーの大切さを知って頂きました。

- ①LED・白熱灯・蛍光灯を比較、計器に表示されるワット数(消費電力)の違いを視覚で確かめました。
- ②待機電力量を計器で測定、視覚で待機電力の存在を確かめました。
- ③手回し発電で電灯をつける実験にたくさんの親子が参加、あらためて電気の大切さを実感した様子。
- ④屋外の運動場では、太陽光パネルと手動の小型発電機で電力を起し、模型の機関車(トーマス等)を競争させました。
- ⑤好天に恵まれ、ソーラーオープンで、ポップコーン、焼きいも等々をつくり、参加者に試食をしてもらいました。

●実験を楽しむ参加者と実験内容を紹介します。

室内での省エネの実験風景



グラウンドでは太陽光パネルでトーマスが走る



小型電力量計(ワットアワーメーター)は逗子市環境都市部環境管理課にて無料貸し出しをしています。ご使用の家電製品の消費電力をお調べ下さい。

2. 逗子小学校で「地球温暖化」についての出前授業を行う

平成25年11月25日、27日の両日、逗子小学校5年生(4クラス、約140名)に「地球温暖化の理解と省エネの大切さ」を学ぶ「出前授業」を各クラス2時間ずつ行いました。

●その学習風景を紹介します。

環境学習の開講挨拶



違い探しゲーム・省エネ家族は?



地球の空気の厚さはどのくらい?



ずしし かんきょうかいぎ ニュース

第30号 2014年2月
事務局 逗子市環境都市部環境管理課
逗子市逗子5-2-16
TEL 046-873-1111

発行 ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)

◎ずしし環境会議とは・・・

逗子市環境基本計画及び行動等指針(ローカルアジェンダ21)にそって、平成13年3月31日に発足しました。市民や事業者が主体となり、環境の保全・創造に向け、市と協働で、様々な取り組み・活動を行っています。

◎活動内容は・・・

「まちなみと緑の創造部会」「ごみ問題部会」「二酸化炭素削減部会」の3部会にわかれ、イベント、調査、出前授業などの活動を行っています。

各部会の詳しい活動内容は、次ページ以降をご覧ください。

◎かんきょう連続講演会開催!!

逗子市では、逗子市環境基本計画で示された3つの重点課題(まちなみと緑の創造・ごみ問題・二酸化炭素の削減)について、ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)の企画・立案により、毎年講演会を行っています。

それぞれの分野の学識経験者等による講演会を開催し、身近なテーマから世界的なテーマまで市民の皆様と逗子の環境について考えるきっかけになることを目的としています。

各回とも、事前の申し込みは不要ですが、当日先着60名までの参加となります。

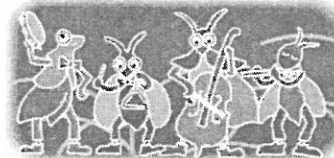
3回全部の参加はもちろん、気になる回だけの参加も大歓迎です。

<第1回>

「昆虫☆おもしろ話」

～春から始める昆虫ライフを120%楽しむ!～

- ①日時 2月2日(日) 14:00~16:00
- ②場所 市民交流センター 第2、3会議室
- ③講師 厚木市郷土資料館学芸員 槐 真史氏



<第2回>

「ごみを出さない喜びを知ってください」
～ごみの2Rと京都市内のリデュース、リユースの先進事例～

- ①日時 2月9日(日) 14:00~16:00
- ②場所 市民交流センター 第2、3会議室
- ③講師 京都市ごみ減量推進会議事務局 齋藤友宣氏



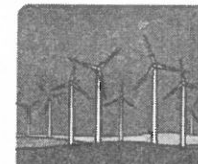
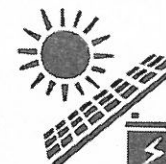
京都市ごみ減量
推進会議とは?



<第3回>

「環境とエネルギーの問題にどう対処するか」
～原発に頼らない自然エネルギー利用、その重要性とそれへの政策転換～

- ①日時 3月1日(土) 14:00~16:00
- ②場所 市民交流センター 第2、3会議室
- ③講師 明治大学名誉教授 藤井 石根氏



*: 手話通訳・要約筆記をご希望の方は、それぞれの講演会の一週間前までに環境管理課までご連絡ください。

<ご興味をもたれましたら>

ずしし環境会議はみなさんの入会をお待ちしています。ご興味をもたれましたら、まずは事務局の逗子市環境管理課までお問い合わせください。このニュースへのご意見もお待ちしています。

◎逗子市環境都市部環境管理課◎

電話 046-873-1111 内線 456、457

E-mail: kankyo@city.zushi.kanagawa.jp

まちなみと緑の創造部会

当部会では、「逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。

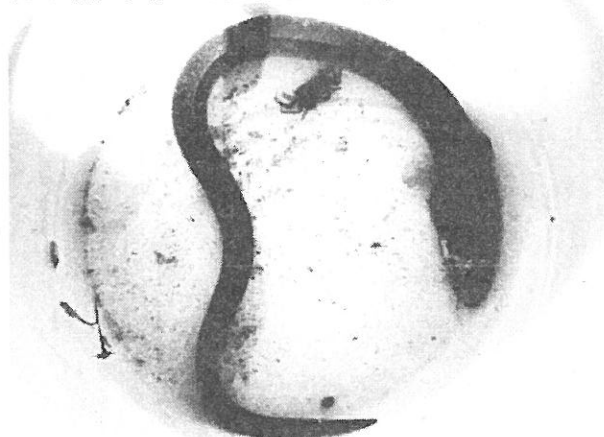
身近な自然に目を向けよう

～学校では学べない生命の学習～

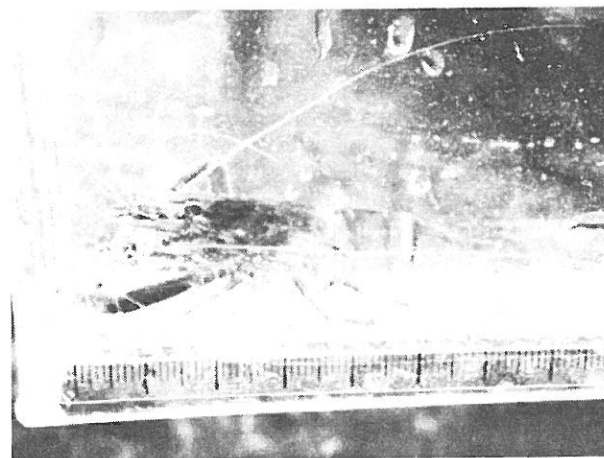
1. 生き物どうしもつながっている

2011年の大震災以来、人間どうしの「絆」とか「つながり」とかいう言葉をよく耳にします。しかし、人間以外の生き物も実は、つながって生きています。

田越川では、写真で紹介した以外にも数種類の魚類、エビ・カニの仲間、昆虫類、鳥類等が互いにつながり合っています。



ウナギ



テナガエビの仲間

まず、生き物が生息する基本となる水ですが、もし、水源林の辺りで開発が進んで川の水量が減れば、生き物にも大きな影響を与えるでしょう。また、ウナギは、近年絶滅の危機が叫ばれていますが、もしウナギが川を上って来ても、餌となる

小魚やエビ類等の数が、何らかの原因で減ってしまえば、今でも稀にしか観察できないウナギは、さらに減ってしまうでしょう。青い羽根が美しいカワセミも田越川流域に生息していますが、もし水生昆虫やエビ類が減れば、それらを餌とする小魚も減り、小魚を餌とするカワセミも減ってしまうでしょう。

2. 身近な自然に目を向けてみましょう

私たち、「まちなみと緑の創造部会」は、年に数回、名越緑地、田越川、逗子海岸などで自然観察会を行っています。まず自然と接し、自然を知り、多くの市民の方と一緒に自然を守っていききたいからです。

私たち人間は、自然から水や食物を得て生きています。私たちや子どもたちの未来に向かって一緒に自然との付き合い方を考えてみませんか。自然と実際に触れることで、テレビなどの情報や学校の授業だけでは味わえない感動を体験することができるでしょう。自然に興味のある方、自然に癒されてリフレッシュしたい方、親子で自然の中で楽しみたい方、ぜひ私たちと一緒に自然に触れてみませんか。

今年もやります！万華鏡☆

昨年、第7回こどもフェスティバルでご好評いただいた「万華鏡ワークショップ」を今年も出展いたします!!是非お越し下さい。

作ろう！小さな自然 万華鏡の世界

3月22日(土) 市民交流センター第2会議室

1回目 10:00～ 2回目 11:00～

3回目 13:00～ 先着各回20名 製作費¥200



ごみ問題部会

ごみ問題部会はごみの減量化・資源化をテーマに活動しています。

京都の若きゴミ研究者から学ぶ

「ごみを出さない喜びを知ってください」

～ごみの2Rと京都市内のリデュース、リユースの先進事例～



日時：2月9日(日) 14時から16時

場所：市民交流センター 第2、3会議室

講師：齋藤 友宣さん

(京都市ごみ減量推進会議事務局スタッフ)

講師紹介：齋藤さんは、京都精華大学在学中よりNPO 法人木野環境を立ち上げ、当時、中小企業には広まっていなかった環境マネジメントシステムISO14001のコンサルティング、リユースびん入り飲料の企画販売の取り組みなどを行い、2011年より京都市ごみ減量推進会議 専門嘱託職員としてごみ減量に関する講座の運営や、スーパーでの容器包装削減などに取り組む。日常生活のなかで、「当たり前前に環境配慮型の生活ができる社会に転換したい」と考え活動中の若きゴミ研究者です。

(現在、京都府立大学生命環境科学研究科博士課程後期在学中)

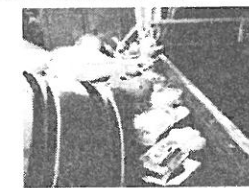
◎京都市ごみ推進会議とは

ごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現を目的として、市民、事業者、行政により設立された団体です。下記の活動の推進は、京都市のごみ有料化財源活用事業として行っています。

◎主な活動

- ・会報、HP等による情報発信、事業者・市民・子ども向けの講座やワークショップ、イベント出展による普及活動
- ・地域ごみ減量推進会議の設立促進、ごみ減量活動、環境学習会等への支援活動支援
- ・ごみの発生抑制(Reduce)と再使用(Reuse)の2Rに重点を置いた2R型エコタウンの構築を目指し、リペア・リメイク情報の発信、エコ商店街事業、買い物袋の持参や簡易包装の推進など。

容器プラスチック収集、処理時に発見された異物の例



①燃やすごみにしかならない汚れた容プラ ②容プラでないプラスチック製品

容器包装プラスチックを、燃やすごみにしないで！！

従来燃やすごみとして集められていた容器包装プラスチック(以下「容プラ」)が分別収集され、資源化されるようになってから、今年でちょうど10年です。

勿論、容プラ以外のプラスチックだって資源化できるのですが、容プラだけはリサイクル協会という組織を作って、事業者がそのリサイクル費用を負担しているからです。せっかくのリサイクル費を出してくれるのにリサイクルできない形で排出している人が結構いるのです。

手間ひまかけて分別排出しているのに燃やされてしまうなんてもったいないですよね。そこで今回は容プラについてお知らせすることにしました。

排出された容プラは

- ① マテリアルリサイクル(プラスチックに再生)
- ② サーマルリサイクル(コークスや石炭の代わりに燃やして、エネルギーとして利用)

のどちらかの方法でリサイクルされます。②の方法ですと、一回使って終わりですから、できれば①の方法でリサイクルしたいですね。集められた容プラは、その汚れや異物混入などで、A、B、Dにランク分けされます。

汚れや異物がない方がランクが上になり、ランクが上の方が①の方法になる確率は高いわけです。10年間の結果は①と②半々のリサイクルでした。異物としては容プラ以外のプラ、プラ以外の容器、危険物として乾電池やカミソリ、野菜スライサーなど考えられないようなものが入っていたそうです。

又、リサイクル業者に渡す前の段階で、汚れのひどいものは、市で分別して燃やすごみにされています。その割合は集まった容プラの20%から40%にもなっています。

ごみ燃焼による二酸化炭素増加は未曾有の豪雨や熱波等異常気象の原因の一つと言われています。脱焼却に向けての努力が問われているのです。容プラ一つにしても、私たちの努力で燃やさないリサイクルに向けて努力していきましょう。